

## ふるさと講座

# 「コウモリ観察会」のお知らせ

今年度のふるさと講座第一弾は、コウモリの観察会を行います。日没後に行動を開始するコウモリの姿を普段見かけることはまずありませんが、実は別海町には1万頭を越えるコウモリが棲息していると考えられています。道指定文化財奥行臼駅通所にはウサギコウモリとホオヒゲコウモリが棲みついており、夜になると餌を求めて飛び立つので、そこを狙って捕獲します。捕獲したコウモリは学術調査のための詳しい記録を取って再び放しますが、その間を利用して講師の方に解説していただきながら観察します。

ウサギコウモリは下の写真のように意外とかわいらしく、またホオヒゲコウモリは北海道レッドデータブックでは希少種とされており、大変貴重なコウモリです。鳥のように自由に飛び回ることのできる唯一のほ乳類であるコウモリの姿を、この機会にぜひ、間近で見てくださいませんか？



- 日時** 平成17年7月25日(月)  
午後6時30分～午後8時30分(雨天決行)
- 場所** 奥行臼駅通所(別海町奥行15番地12)
- 講師** 根室市歴史と自然の資料館  
主任学芸員 近藤 憲久 氏
- 日程** 6:30～7:00 コウモリについてお話  
7:10～7:40 コウモリの捕獲  
7:50～8:30 コウモリの観察とお話
- 募集人員** 25名(児童・生徒は保護者の方と一緒に参加してください。)

### 参加申込み先

郷土資料館へ電話・FAX・メール(裏面に記載しています)のいずれかにてお名前・電話番号をお知らせください。

### 申し込み受付期間

平成17年7月24日(日)まで。ただし、定員になり次第締め切ります。

### その他

- 虫除けスプレーとヘッドライト(お持ちでない方は懐中電灯)を持参してください。
- 当日は現地(奥行臼駅通所)集合になります。車は国道沿いにある駐車場に止めてください。



# 「加賀家文書」の調査研究から～その16

調査員 戸田 峯雄

前回は、昨年の12月の掲載でしたから、半年振りになります。今回は、平成17年6月15・16日に開催した「加賀家文書歴史講座」の概要を掲載します。

まずは、夜分にもかかわらず参加くださいました皆さんにお礼申し上げます。遠く中標津や尾岱沼・中春別などからも参加していただきました。これからも参加者を拡げていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

今回の講座は、「別海町郷土資料館だより」(No.46、47、48)掲載「加賀家文書の調査・研究から」その1から3で取り上げた「箱(函)館への道のり『安政六未年 土人御目見附添日記』」を第一回目の講座として6月15日に行い、『喜多野様・井上様・竹内様御取扱日記』を第二回目の講座として同16日に行なったわけです。講座では、「加賀家文書」の中の絵図や記録、他の絵図や文章なども使って、分かり易くしかも興味が持てるようにしました。実際には、パソコンを通してテレビの大画面の映像を見、私の話を聞き、歴史講座用に作った資料を読みと、参加者の皆さんにはたいへんなことだったと反省もしております。次回からはもっとシンプルにしかも親しみ易いようにする工夫改善をします。(絵図や資料等を使つての講座だったので、表現を多少かえたり、省略したりしています。)

第一回目「アイヌ御目見附添日記」伝蔵～根室から箱館への道のり、仁助と西別川～

この「日記」は、伝蔵が根室地方のアイヌ、庄屋後見役仁助(ベツカイ58歳)・総年寄役陣平(子モ

口49歳)・名主役重助(クン子ベツ49歳)・付添役長助(ベツカイ25歳)・作蔵(ウエンベツ25歳)に付添つて箱館まで出向き、御奉行様にお目通りした時の日記(報告書)なのです。(当日は画面に「日記」の原本を映しました。当たり前のことですが原本はここにしかありません。)

原本では「土人御目見附添」となっています。この「土人」という言い方は、安政3年(1856)に箱館奉行(幕府が支配)になってから呼称されるようになったのです。この呼称は、つい近年まで「旧土人保護法」として使われていたのです。

「アイヌ」(人間・人)という意味を表すということばとして「加賀家文書」には「土人」という用語が使われていますが、私は「アイヌ」ということばで表しています。世界的にも、「エスキモー」が「イヌイト」(人)という言い表し方になっています。

北海道には北海道ウタリ協会、各市町村にはそれぞれ支部が作られ、「アイヌ文化」を学ぼうということが盛んになってきました。支部での「アイヌ文化」の講演もしたことがあります。なにせ、伝蔵は「アイヌ語通辞」であり、アイヌの人々が代々語り継いできた物語も筆録していますし、絵図としても描いております。(先日、札幌から来館された大学の教授が、「これは『宝』ですね。別海の宝です。」などと絶賛しておられました。また、来館することを約束してお帰りになりました。)(以下次号に続く)

郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ  
7月(■は休館日)

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料 一般個人300円 一般団体(10名以上)240円  
高校生以下は無料となります。



加賀家文書歴史講座2日目(於 加賀家文書館)

別海町郷土資料館だより No.72  
発行日 平成17年7月1日  
発行所 別海町郷土資料館  
別海町別海宮舞町30番地  
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)  
e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 動植物を研究している人は、それぞれの対象分野の生物に対する「目」が一般の人と比べてものすごく発達しています。すばやく飛ぶ小さな蝶の種別・雌雄までもすぐ判別してしまう中春別のEさん、かなりの暗闇でもコウモリが見えてしまう釧路のSさんの「目」に驚かされた6月でした。(戸田博史)